

## まもルームの特徴

空間の確保	木製フレームはベッドの廻りだけなど、スペース確保が限定的だが、まもルームは、部屋まるごと補強が可能。タテヨコ高さの寸法も変更可能であるため、大きな部屋の中心部分やコーナースペースに置いて、生活空間を避難空間として普段使いする事が可能。
強度	木製フレームだと、十分な強度を確保する場合、より多くの部材を必要とするが、特許出願しているまもルームのジョイント工法は、コンテナの波板鋼材を重ねて繋げているため、一般的な住宅の2階部分が崩落しても十分な耐力を有し、ピアノやタンス等局所的落下にも対応可能。
施工制限	内壁・外壁に手を加えない施工が基本的に可能であり、耐震補強を必要としない。
コスト	木製フレームや他社鉄製フレームの坪単価に比べると廉価。自治体によっては、補助金申請が可能であるため、導入し易い。
他の部屋とのアクセス	木製フレームとは違い、補強のための段差が床面にできないため、足を上げなくても摺り足で歩ける。車椅子での歩行も可能。間取りによっては、外開きドアに換えるだけで設置可能。
組立人数	大人3人ほど。材料をよりスリムにする事で省力化が可能。
道具と組立時間	スパナと電動インパクトレンチがあれば1時間くらいで誰でも簡単組立。
重量とサイズ	1枚24kgくらいで10枚構成になるため全体重量は240kgほど。4つのコーナーポストそれぞれの柱に全体重量が4点分散されるため、床に掛かる荷重は、1ヶ所わずか60kgと大人1人の体重とほぼ同じ。
採光性	木製フレームと違い、筋交いや耐力壁が不要であるため、現在の室内照度とほぼ変わらない。
デザイン性	柱に棚を取付けたたり、塗装や壁紙を貼ったりと、快適な空間が生まれる。電気配線等を施す事で照明設計も可能。

・2016年熊本地震では、2日間で震度7が深夜に2回続けて発生するという非常に厳しい現象も起きたが、現代の多くの建築物の耐震補強設計はそこまでの強度を想定していないため、昭和56年以降に建てられた耐震住宅に対しても、より一層の安全性を確保する事が可能。